

2022年東北海区の海況の特徴

奥西武・笥茂穂・長谷川大介・田中雄大・横内克巳（水産研究・教育機構）

関係各機関及び水産研究・教育機構の海洋観測結果を用いて作成した月毎の100m, 200m深等の水温分布図, 並びに人工衛星による海面高度観測結果に基づいた海況の経過の特徴を以下に述べる. 近海の黒潮北限位置, 親潮第1分枝先端緯度については, 1960~2015年までのデータを用いて, 平年並み等を定義している.

1. 2022年の海況の経過

表面水温

北海道南東方の表面水温は8月以外で高めに推移した. 本州東方における表面水温は2, 5月以外で高めに推移した.

黒潮域

(1) 房総沖での黒潮離接岸は6, 7月が平年並みであったが, それ以外は接岸~やや接岸で推移した.

(2) 近海の黒潮の北限位置は1~7月, 10~12月はかなり北偏~極めて北偏で推移し, 8月にやや北偏, 9月に平年並みとなったが, 年間を通じて北偏傾向であった(図1).

混合水域

○黒潮系暖水

近海の黒潮系暖水の北限位置は5, 10, 11月は平年並みであったが, それ以外はやや南偏~極めて南偏で推移し, 年間を通じて南偏傾向であった.

○暖水塊

2021年11月に発生した2021Dは12月まで, 三陸はるか沖で停滞している. 2022年2月に八戸沖で発生した2022Aは11月まで停滞し, その後, 消滅した. 2022年3月に三陸はるか沖で発生した2022Bは6月まで停滞し, その後, 消滅

した. 2022年5月にトドヶ崎沖で発生した2022Cは7月まで停滞し, その後, 消滅した.

2022年7月に八戸沖で発生した2022Dは8月に三陸沖に移動し, 12月まで停滞している. 2022年9月に金華山沖で発生した2022Eは12月にかけて八戸沖に北上した.

親潮域

○親潮第1分枝

親潮第1分枝は1, 6月が平年並み, 2, 5月がやや南偏で推移し, それ以外はやや北偏~極めて北偏で推移した. 7, 9, 11, 12月は確認できなかった(図2a, 3a).

○親潮第2分枝

親潮第2分枝は5月にやや南偏, 6月にかなり北偏であったが, それ以外は確認できなかった(図2b, 3b).

津軽暖流域

津軽暖流の下北半島東方への張り出しは4, 8, 9月は平年並みであったが, それ以外はやや弱勢~極めて弱勢で推移し, 年間を通じて弱勢傾向であった.

2. 2022年における海況の特徴

(1) 表面水温は北海道南東方, 本州東方ともに高めに推移した.

(2) 2021年11月に発生した2021Dは, 年間を通じて三陸はるか沖に停滞している.

(3) 近海の黒潮の北限位置は年間を通じて北偏傾向であった.

(4) 親潮第1分枝の張り出しは春季に南偏傾向が見られたが, 夏季以降は北偏傾向が続いた.

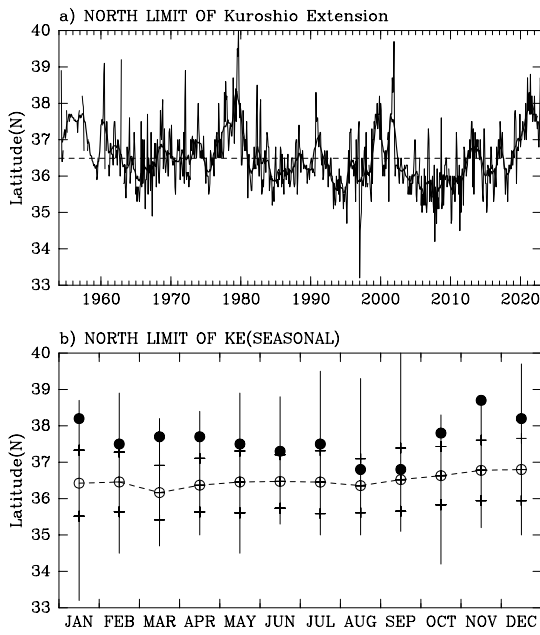


図1 近海黒潮北限緯度(東経 146 度以西の海域の 200m 深度の水温 14°Cの北限経度). a)は 1954 年からの時系列で, 細線は各月における黒潮北限緯度, 太線は 13 ヶ月移動平均, 破線は平均緯度を示す. b)は 2022 年の月変動で, 白丸は各月の年平均緯度, 黒丸は本年の先端緯度を示す.

準として冷水部先端緯度を読み取った値を示している. 細線は各月における黒潮北限緯度, 太線は 13 ヶ月移動平均, 破線は平均緯度を示す.

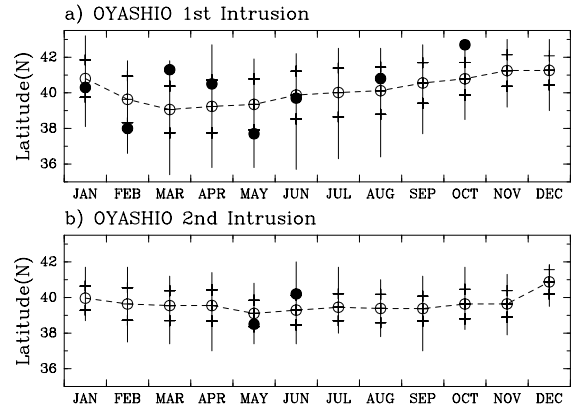


図3 2022 年の親潮第 1 分枝先端緯度 (a) および親潮第 2 分枝先端緯度 (b) の月変動. 図は 100m 深度の水温 5°Cを基準として冷水部先端緯度を読み取った値を示している. 白丸は各月の平均先端緯度, 黒丸は本年の先端緯度を示す.

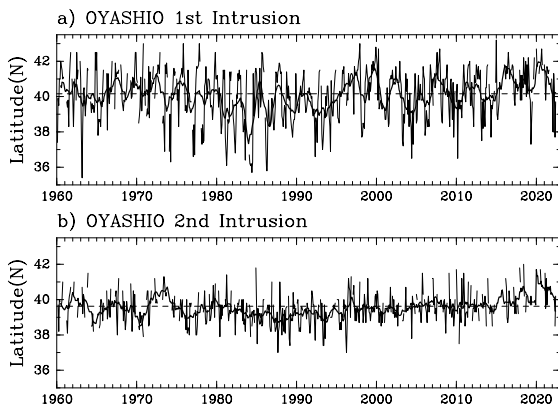


図2 親潮第 1 分枝先端緯度 (a) および親潮第 2 分枝先端緯度 (b) の時系列. 親潮の水は舌状に南方に張り出して来ることが多く, このような舌状の冷水部を三陸地方の沿岸側から, 親潮の沿岸寄りの分枝(第1分枝), 沖合の分枝(第2分枝)と呼ぶ. 図は 100m 深度の水温 5°Cを基